

## 湯沢市の山田中学校

### 全校で取り組む「食べ残しゼロ」

湯沢市の山田中学校では、給食の食べ残しがありません。これはYAMACHU-SDGsの一環で、生徒全員で取り組んでいます。給食の配膳の際、盛り付けの量を調整したり、事前に友人と分け合ったりします。そうすると、たくさん食べたい人も、小食の人も全員が完食できます。捨てられる食べ物を減らすことは、持続可能な消費や生産の方法を確保することを目指すSDGsの目標12「つくる責任 つかう責任」の実現につながります。

YAMACHU-SDGsでは、全校での活動以外に、生徒全員が個人のSDGsのテーマを見つけて研究しています。地域の川をきれいにするために生息する魚を調べたり、身の回りで廃棄される食料を減らす方法を考えたりと、研究を深めています。

YAMACHU-SDGsのリーダー、高橋太聖さん(3年)は、取り組みの土台にある思いを「自分たちの未来を自分たちでつくること」と話します。活動を通じて「人が優しく、自然豊かで住みやすいという都会にない良さがある地域を残したい」という気持ちが強くなりました。

### みんなで活動を進めよう

私たちが住む秋田県もSDGsに取り組んでいます。今年7月にはSDGsの進め方を定め、豊かな秋田を未来に残すために、県民みんなで活動しようと呼び掛けています。

貧困や飢餓などの地球規模の問題を解決するための目標と聞くと、「難しそう」「自分には関係ない」と思うかもしれません。でも、SDGsへの取り組みを進めている秋田県の「あきた未来戦略課」の土井芳晴さんは「皆さんが知らないうちに行っているSDGsがあると思います」と話します。

山田中学校の「給食を残さないことで食料ロスを減らす」「地元の人と協力し、地域の魅力を伝えるイチゴのアイスを作る」という取り組みを知った土井さんは「素晴らしいSDGs」と感心した様子。「子どもたちに『自分たちが秋田の課題を解決して、豊かな秋田を残す』という気持ちを持ってもらえたらいいなと思います」と話していました。

(秋田魁 岡部千穂)

(「令和3年10月17日(日)のさきがけこども新聞」の記事より、一部抜粋)